

異言語や知識をつなぐコミュニ ケーション能力の教育支援

グローバル交流の基礎を築く文化と経験の翻訳を目指して

既存の翻訳システムを用いた会話での問題

- ・英語話者は速く、長く話しがちでシステムは長時間の発話を認識できない
- ・アクセントが強いと翻訳機が対応できない
- ・方言はうまく翻訳されない
- ・コンテキストに特化した翻訳は苦手（“Change”は「お釣り」か「着替え」か）

人間の通訳は聞き返しなどをするため、話者は上記のような話し方をし続けることが少ない。
相手への話の伝わり方を考慮した話し方を教育する必要がある。

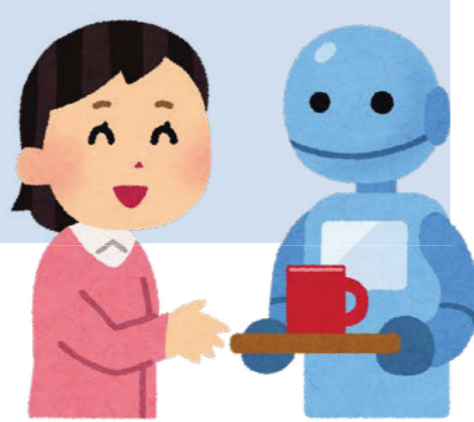
研究内容

- ・人間同士の会話に翻訳システムあるいは評価者（例えば通訳や教員など）が介在し、話し方や情報の不足、言葉の選び方などの基本的なコミュニケーション能力の教育を支援する。
- ・異言語や異なる背景知識を持つ話者同士の会話において、音声認識技術や言語処理技術により相手への話の伝わり方を自動判別し、話し方の改善をフィードバックする。
- ・いずれは翻訳システムあるいは評価者が介在しなくとも円滑なコミュニケーションが行えるように教育を行う。

新規性・優位性

「言葉の壁をなくす社会」 実現への貢献

翻訳機に頼り切るのではなく、翻訳機を使いこなすため、人間が機械に寄り添うインタラクションを提案。



アイデアの新規性

これまで表示されなかった音声認識・翻訳の尤度を示し、機械が出した翻訳結果への自信のなさを人間に分らせた。



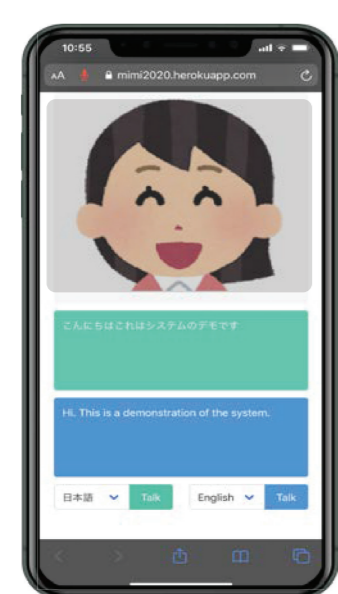
近い将来での技術的 および商業的な実現性

既存の音声認識・翻訳システムの尤度を利用可能。大きなコストなく実機へ搭載可能。



応用・活用例

「早口」で話したら「困っている」顔を提示、「難しい単語」を使ったら「わからない」顔を提示など、コミュニケーションにとっての様々な“バリア”の発生を伝えるアプリ。



機能

- ・音声認識APIによる多言語音声認識
- ・10言語での音声入力が可能

使用方法

- ・選択した2言語いずれかのTalkを押しながら音声入力
- ・Talkから指を離すと入力終了



Demo

RESEARCHER

Jeremy White (ジェレミー ホワイト)
立命館大学 情報理工学部 情報理工学科 准教授

PATENT/PRESENTATION

特願2020-105817